

## 農業機械士と農作業安全

全国農業機械士協議会  
会 長 伊藤一栄

この度は、膝の怪我で審議会に出席できず、大変ご迷惑をお掛けして申し訳ございません。27日の審議会への資料として、農作業安全についての活動・考え方などご報告致します。

農作業安全運動にも関わらず農作業死亡事故件数が横ばいの状況であり、我々機械士も地域の末端まで入っているにもかかわらず、機械士一人一人の力を活かさきれていない気もします。大変難しい問題かもしれませんが、機械士会員の足下集落から地域全体に向け、農作業事故防止活動をしていく事が出来ないかと考え、改めて動き始めています。

主だった活動をいくつかご紹介致します。

- 1・昔は各地に於いて農作業安全運動と言うと、トラクタを連ねキャラバン隊を作って公道を走った事が多かったのですが、今は地区あるいは支部単位でそれぞれのぼり旗を立てたり、「農耕車に注意」の農道標示標識を私有地に建て、一般車両に注意を促す活動をしています。
- 2・農作業安全のための地域に於ける危険マップ（写真併用）づくりをし、農家全戸に配布し、作業現場への行き帰りの安全を注意喚起を促す。同時に農家の皆さんにはヒヤリハットの年代別のアンケート調査も実施しています。
- 3・農村医学会で行った「農作業事故対面調査」に参加し、対面調査から見た農作業安全の考え方をまとめた DVD も出来上がり、即全国協も利用させて貰い、私の新潟県では会員60名程ですが県内各地にばらけているので、全員に DVD のコピーを配布、集落の会合等で見て貰いながら農作業安全について話し合ってもらいたいとお願ひしています。
- 4・私の集落では、収穫祭の時に参加された皆さんに、体力テスト（7種目）を楽しみながら受けてもらっています。継続した中で自分の身体の変化に気づいて貰い、農作業の取り組みの参考にしてもらいながら、いつまでも楽しいお酒を飲んで貰いたい思いで行っています。
- 5・「農作業事故対面調査」を取り組み始めてから、自分の居る農協が農作業安全に向けた取り組みが行われていないことに気づき、農協に農作業安全運動に向けた研修会等の開催のお願いにお邪魔したところ、快く了解頂き、JA 越後さんとう農作業安全研修会を開催することが出来るようになり、今年度で5回目を数えます。
- 6・作業機をつけたトラクタの道路走行について。  
以前北海道では、大型トラクタが夕方になると追突されるケースが多く問題視されたが、反射シールの貼り付けで事故件数も減った経緯もあり、私も反射シールの利用も多くしています。しかしながら小型トラクタは特にスピードも遅く、年配者は特にキープレフトが守れず引っかけられるケースが多いようです。  
全般的に小型車は特にキープレフトを守り右折時には一旦左に止め、後続車を確認後右折をする癖をつける事が大事であり、車道を走らせて貰うという気持ちで走ることが事故を起こさない行動と思います。地元でも結構注意しています。

